



2013.5.1.

Tel 080-3451-8400

E-mail hasshoren8.zim@softbank.ne.jp

例会・運営委員会の報告

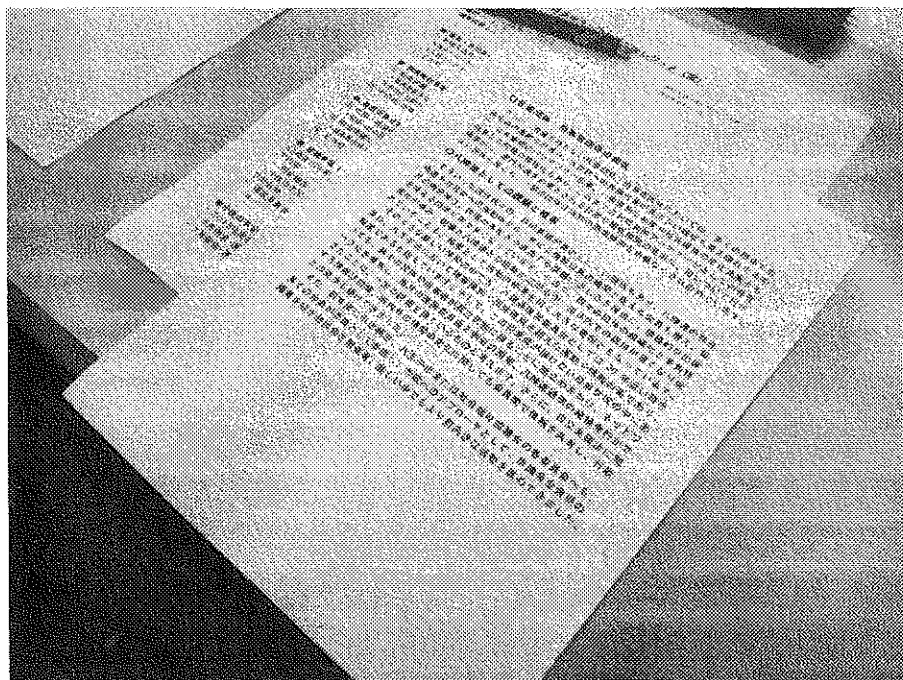
4月18日の例会・運営委員会では、入退会の報告の確認と総会の準備などを行いました。その為、例会というよりは運営委員会の要素が高い話し合いとなっていました。運営委員以外の方々からも貴重なご意見を頂けた事で、より深みのある話し合いの場となりました。



毎年、行っている総会を開催する上で事前に必要とされる運営委員の作業としては議案書の作成に始まり、会計の決算・予算・監査、同時に会場の確保など多岐に渡っており、それらを通年、各運営委員は自ら担当する役割を2月前後から取り組み始めています。

ここ数年、各運営委員が安定した形でそれぞれの担当を担っていた為に、比較的同じ様な作業を繰り返してきた総会の準備でしたが、今年度の総会準備になって今までとは少し違った内容で議論される場面が出てきました。

これまで次年度の議案書のなかにある基本方針を決める際に、近年は自立支援法を皮切りに家賃補助など、対行政でも市をメインとした八障連からの要望が強かった経過から、加盟団体が一丸となって同じ方向を見据えながら運動してきた事もあって、必然的に基本方針は一貫していたと言えました。しかし、今年度あたりから、それら各団体が共通する問題がある程度、解決の見込みが立ち始めた事によって今



後の八障連としての方向性を踏まえて、来年度の基本方針を打ち出す事に議論の余地が多く出てきた様子でした。様々な団体が障害種別を問わず一つの会に集結している協議会は大きな特徴である反面、問題などに取り組む場合には統一性に欠け、全体の足並みが揃いづらいという難しさが混在すると言えます。これまで補助金制度という全体で共有できるテーマが無くなった今、今後はこれからの全体として共有できるテーマを見つけ出す作業に取り組む時期に来た事を予感させられる話し合いとなりました。

文責：川出

今後のスケジュール

5月 16日 (木)	運営委員会議	18時～20時	クリエイトホール 9階 試食コーナー
5月 18日 (土)	総会	開場13時 総会13時半～16時	八王子労政会館 サークル室
6月 20日 (木)	例会&運営委員会議	18時～19時 & 19時～20時	クリエイトホール

© Hasshoren Tsushin

ころぼっくる (落の会) 認定短期入所事業と日中一時支援事業 ころぼっくる施設長 秦 純一郎



—市への改善要望が一步実現しました！—

ころぼっくるは社会福祉法人落の会の事業所のひとつ、認定短期入所と日中一時支援事業を行っています。障害のある方が短期の宿泊(月4泊5日まで)、日帰り(月56時間まで)で、御家族の冠婚葬祭や体調等により介助できない時や日常的に介助にあたっている御家族が休息を必要とした時に利用できる施設となっています。ころぼっくるは2006年から運営してきましたが、毎年赤字運営であったため、八障連を通して、継続的に市へ日中一時支援事業の単価 UP と委託料換算を単位制から時間制への改善を要望し続けてきました。その結果、2013年度より、委託料換算を単位制から時間制へと改善することができました。

—支給量、委託料の問題—

<昨年度までは・単位制>

日中一時支援事業の支給量は月に14単位となっていました。昨年度までは、利用時間によって、1~3単位の3つの区分に分けられ、委託料が支払われていました。その実態は、各単位の限度とする時間(例えば、2単位なら7時間45分)の利用が多いころぼっくるとしては、人件費だけみても、市の委託料だけでは、事業運営が困難な状況でした。(ころぼっくるは、マンツーマンで対応を必要とする方の利用が多い現状の中、利用者が7時間45分利用した際、市からの委託料は5000円となり、ころぼっくるのパート職員1人を同時間配置すると、最低賃金でも850円×8時間=6800円の支出となり1800円の不足となっていました。これには、打ちあわせ時間、受入れ準備時間、記録時間、清掃時間、調理時間等は含まれないため、実際は上記以上のころぼっくるの持ち出しとなっていました。)

<今年度からは・時間制>

単位区分がなくなり、7時間なら7000円、8時間なら8000円と時間比例となり、また、今までは8時間以上の利用は10時間でも一律3単位の7500円の委託料から上限が無くなり、10時間利用の場合、10000円の委託料となりました。

人件費支出として、依然、打ちあわせ時間、受入れ準備時間、記録時間、清掃時間等は含まれませんが、昨年度よりは赤字幅も3分の1程度は縮小される見込みです。しかし、赤字の状況にはかわらず、ころぼっくるが存続し、障害を抱えた方、そしてその家族が安心して、八王子市で過ごし続けることができるよう、引き続き、時間単価 UP を要求としていく必要があります、八障連と共に市に訴えていきたいと思ひます。

—最後に八障連に参加してきたの感想です—

八障連に参加し10ヶ月が経ちます。初めて、参加した八障連主催のわらじの会の交流イベント。話すテーマは興味深いものがあるものの参加者の少なさに驚き、八障連は組織として成立しているのかと感じたのを覚えています。その後、対市交渉、議員懇談を進めていく中、例会の議論も活発になり、八障連総会にむけても、八障連としてのねらい、目的を明確にしていく作業が行われ、例会への参加団体も増えてきている状況があり、自分にとっては、学びの場であり、そして、要求確立の場であると感じています。

秦 淳一郎



最近、私が日中通所している第一若駒の家のスタッフから『バスに乗ったりするとき、気まづくなったりしませんか』と訊かれました。

学校訪問で会った小学生にも『人からじろじろ見られて辛い不是吗』と質問されたことがあります。

確かに多感な頃は、自分が他の人と異なること、視線が集まる事を気にした時期もありましたが、多くの人に見られているという事は、護られている事でもあるのだと気がつきました。実際、外出先でトラブルが起こったとき、付き添いのヘルパーだけでなくその場にいた人たちに助けられたことは何度もあります。時にはこんな面白い出会いもあったりしますから、お出かけはやめられません。

ある年のある日、夜遅い中央線の車内で、よれよれの背広を着た赤い顔のオヤジが酒臭い息を吐きながら私に語りかけてきました。

「なんだニイチャン、こんな遅い時間にドコ出かけてたの大変そうだねえ。いつからソレ(車いす)のってんのよ？」

あからさまにウザい。酒クサイ。だけど露骨にイヤな顔をすれば角が立ちます。渾身の忍耐力を発揮して、作り笑顔で決死のオヤジの話に相づちを打ち、じっと耐える私でありました。けれど頭の中は《ああ…この酔っぱらいが…早く立ち去ってくれ》

という思考でいっぱいでした。切実な私の願いよそに、オヤジの話はなおも終わりを見せません。

「なあニイチャン、知ってっか。JRの車両にはおのおの車両番号とカタカナの記号が割り振ってあってだな…」

《嗚呼…この世にはもはや、救いの神も仏も居られないのだ…》

そうコッソリと絶望しそうになったとき。「そうかそうか、いろいろ苦勞も多いやな…」

なにやら一人で勝手に納得したオヤジが、自分の背広の胸元をごそごとまさぐり始めたのです。出てきたのは、妙にごつくて立派な財布。オヤジはそれをさらに開き、指で長方形の紙をつまみ出すと、その一方の端を私に向けたのです。よく見ればそれは、かつて

「《天は人の上に人を作らず、人の下に人を作らずと言えり》」

という有名な言葉を残した偉大なお方の顔がプリントされた、日本国内最強にして最も神聖な紙幣……「おじさんからのホンのキモチだ、付き添いのお兄ちゃんもな。これでうまいもんでも食いな」ウソのような奇跡の話。同行していた介助者とともに、思わず顔を見合わせて驚きましたが…「あの…お気持ちはとても嬉しいです。でも結構です」「なにィ！このおれのマゴコロが受け取れねえってのかよ」

「いえ、けしてそうじゃありません！いまはそれで納得してても、お酒が冷めてお財布からいつの間にか大切なお金が消えていたりしたら、お困りになるのはそちらだと思います」ここであっさり受け取ったりしたら、なんて卑しい、節操のないヤツと、後になって自分がイヤになるかもしれない。そんな気がしたのです。

「そうか、つまんねえお節介したな。アンタ偉いよ、頑張んな」

そういってオヤジは去っていきました。ちょっと後悔しました。

「もったいない事したよね」「あのカネあれば余裕で焼き肉喰えましたよ」と、大笑いしながら家路につきました。